

保全する生きものを 設定する

調査結果を広く知らせていくことと共に、それを活用していくことも大切です。
調査結果をもとに、その地域で保全する生きものを設定してみましょう。

●お年寄りや農家に聞いた話をもとに設定

昔の生きものや周りの環境、遊びなど、お年寄りや農家の話から出てきた生きものを、調査結果の記録用紙やマップから探します。それらの生きものが今も生息しているか、すむ環境が変化していないかなどを調べ、必要であれば保全の対象として設定しましょう。



●調査結果をもとに設定

続けてきた調査結果の記録をもとに、少なくなったと思われる生きものや、地域マップと照らし合わせてみて、生息場所がなくなりそうな生きものをリストアップしてみましょう。そして、その地域で保全すべき生きものを設定してみましょう。





● 絶滅危惧種をもとに設定

調査結果の生きものの中に、環境省や都道府県が指定している絶滅危惧種が入っていないかを調べ、専門家の助言を受けながら生態系の指標性を踏まえて保全すべき生きものを設定しましょう。

レッドデータブック (RDB)

レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本です。1966年にIUCN（国際自然保護連合）が中心となって作成されたものに始まり、現在は各国や団体等によってもこれに準じるものが多数作成されています。これらは生物多様性の保全のために欠くことのできない基礎資料となります。

『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—』(RDB)

編著：環境省野生生物課 発行：(財)自然環境研究センター
A4判 カラー口絵付

【巻構成】

- ①哺乳類（2002年発行） ②鳥類（2002年発行） ③爬虫類・両生類（2000年発行）
- ④汽水・淡水魚類（2003年発行） ⑤昆虫類（2006年発行） ⑥陸・淡水産貝類（2005年発行）
- ⑦クモ形類・甲殻類等（2006年発行） ⑧植物Ⅰ 維管束植物（2000年発行）
- ⑨植物Ⅱ 維管束植物以外（2000年発行）

【主な掲載項目】

カテゴリー区分／動物群名／和名／学名等／英名／固有性／摘要／形態／分布の概要／生物学的特性／分布域とその動向／個体数とその動向／生息地の現況とその動向／存続を脅かしている原因とその時代的变化／特記事項／保護対策／参考文献／英文サマリー



ここを
チェック

（生態系の指標性をふまえて選ぼう）

保全すべき生きものは、専門家の助言も受けながら、生態系の指標性をふまえて選びます。地域の生態系を考えて、1) 食物連鎖の上位に位置している生きもの、2) 特殊な環境に依存している生きもの、3) 地域の生態系を典型的に表している生きもの、の3タイプの生きものを保全すべき生きものの対象に選ぶとよいでしょう。